

あとがき



ニカラグア民芸品の首ふり亀

ニカラグアは中米に位置し、南北にコスタリカとホンジュラスに挟まれています。国土は日本の三分の一に当たり北海道と九州を合わせたぐらいといわれます。人口は五一四万人、一人当たり所得は年約九六〇ドル（二日三ドル以下で暮らす）で、中南米ではハイチに次いで貧しい国です。自然は日本と似ていて火山国であり湖もあり風光明媚ですが、地震やハリケーンといった自然災害も多い国です。一九七二年には首都マナグアが地震により壊滅的な打撃を受けました。また、一九九八年にはハリケーン・ミッチにより甚大な被害を受けました。一九八〇年代はサンディニスタ革命により社会主義政権ができましたが、それに反対する勢力（コントラと呼ばれる）と内戦を経験しました。一九九〇年から民主的政権ができ二〇〇七年一月まで一六年三代にわたり自由・民主主義的大統領がニカラグアを治めました。一月以降またサンディニスタが政権に返り咲いています。

日本からの援助は、ハリケーン・ミッチ以降急激に増えました。親日的国民、日本を国際場裡で常に支持してくれる国としてニカラグアは今まで日本とは緊密な関係を築いてきました。日本は主要援助国として同国の発展に協力してきました。とくに、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」はここに記したように非常に役に立ち、現地からも大変喜ばれています。発展途上の貧困国には、こうした小回りが利き、住民直結型の援助がとても効

果的であると考えます。

今こうしてニカラグア駐在中の活動を振り返ると、小規模館である在ニカラグア日本大使館でも、種々の困難を乗り越えて皆全力で仕事をこなしており本当に頭の下がる思いです。館員もそうですが、草の根班の皆様も頑張っており大変お世話になりました。また、筆者の在職中にボラーニョス大統領、カルデラ外務大臣等ニカラグア政府の人々には、種々の貴重な機会を与えていただき感謝しております。

二〇〇八年三月に出版された外部専門家によるODA第三者評価『ニカラグア国別評価報告書』（外務省）によると、ニカラグアの草の根・人間の安全保障無償協力の実施方法は、「他の大使館の模範となりうるものといえる」（同書、三―四七頁）と高い評価をいただきました。大変ありがたいことです。これを契機にODAにおける草の根援助が世の中にもますます認知されれば望外の喜びであります。

なお掲載した写真の一部は、在ニカラグア日本大使館から提供していただきましたが、それ以外の写真は筆者のカメラですべて撮影したものです。手振れで見にくい写真もありますがご容赦下さい。また、本文の内容に関して外務省地域課と国際協力局の皆様にご助言をいただきました。とくに中米課増田智恵子さんにはお世話になりました。草の根援助に関

しては、日本大使館・草の根班キャップの小西洋一さんに資料で大変お世話になりました。さらに、出版に際しては、日本貿易振興機構・アジア経済研究所の二名の査読者、ならびに研究支援部の新田淳一さん、真田孝之さんにお世話になりました。ここに記して御礼申し上げます。なお、本文中に筆者の記憶違いや事実誤認があるかも知れませんが、それらはすべて筆者の責任です。

現在ニカラグアは、サンディニスタ政権が成立して今までと違った環境になりつつあると聞きます。経済発展のためには内外の投資が不可欠ですが、同国と同じ緯度のタイからみるとその差は歴然としています。ニカラグアのますますの発展を祈念しつつ。

(バンコクにて、二〇〇八年三月)